



つとむ や すみ 勉 角 谷

5年後、10年後の湯沢高原の姿は？ 再整備は、事業計画に基づいて計画的に

高額な再整備の費用対効果は。

答 再整備は安心安全の確保、事業計画は今後検討

問 湯沢高原の再整備に、来期、5億7000万円という高額な投資を予定しているが費用対効果はいかに。

答 町営時代は高額な赤字補填が必要だった、SRSに運営を依頼してからは、この4年間で、町は8000万円ほどプラスになり、一方SRSは多額な累積赤字を抱えリフトの整備に手が回らなかった。町の施設で

あり、最大の観光資源なので、契約内容を変更し、安心、安全を確保するために、再整備を判断した。

すぐに客足が増えるとは考えないが、減少の歯止めをかけた。夏はボブスレーリフトの移設による回遊性の向上や、アスレチックの新設及び高山植物の植栽により、来場者の回復を見込んでいる。

問 5年後、10年後の目指すべき姿を明確にし投資計画を立てるべきではないか。

答 ①事業計画案は出来ているのか。②5年後、10年後の湯沢高

原の目指す姿はいかに。
③コンセプトや営業戦略は確立しているのか。

答 細かい事業計画案はできていないが、予算が決定後「町営スキー場運営委員会」で検討し決定する。

問 予算が通つたら事業計画を策定するのではなく、これだけの成果を出すために、これだけの予算が必要だ、という姿勢が大切と思う。全員が共通認識を持つためにも、季節に応じた湯沢高原の目指すべき姿と事業計画案を提示してほしい。

答 事業計画案をしっかりと定めて進める。

リフト整備費の大幅アップの理由はいかに

答 予算決定後、整備計画とともに精査する。

問 町長は12月定例会で、トリプルリフトの整備費に10年間で、1億8000万円かかるので、新規架け替えを判断したと答弁したが、現在

の整備予定額は10年間で3億2000万円と大幅にアップしている。また、ボブスレーリフトの移設は、当初7000万円だったが、1億2000万円で計上されている。理由はいかに。

答 トリプルリフトは、新たな整備箇所が出てきている。サマーボブスレーの移設についても、地盤が悪い所が判明し整備費が上がっていると聞いている。予算決定後、細部の確認を行う。

問 ボブスレーリフトの整備予定額は5年間で2000万円である。この10年間、夏の観光客の減少率よりも、湯沢高原の利用客の減少率が大幅に高い、ボブスレーリフトに1億2000万円かけるよりも湯沢高原自体の魅力アップに、投資をするべきでは。

答 来場者が落ちているので、新規のアスレチックや植栽と同時にボブスレーの回遊率を高め、減少に歯止めをかけた。

問 早期に事業計画案や整備計画を策定し、計画的に進めてほしい。

答 そのつもりである。

湯沢高原や布場の誘客への町の姿勢は

答 湯沢高原・布場ファミリールに、積極的に取り組む。

問 湯沢高原及び布場スキー場の誘客に対して産業観光課及び町観光協会はどのように取り組んでいくのか。また、全員協議会には総務課しか出席をしていないが、産業観光課も出席すべきと思うが。

答 湯沢高原の誘客には従来同様、季節に応じて、各種イベント等、積極的に取り組んでいく。

布場もファミリールも湯沢高原と一体と考えている。又、今後、全員協議会には産業観光課も出席させる。